

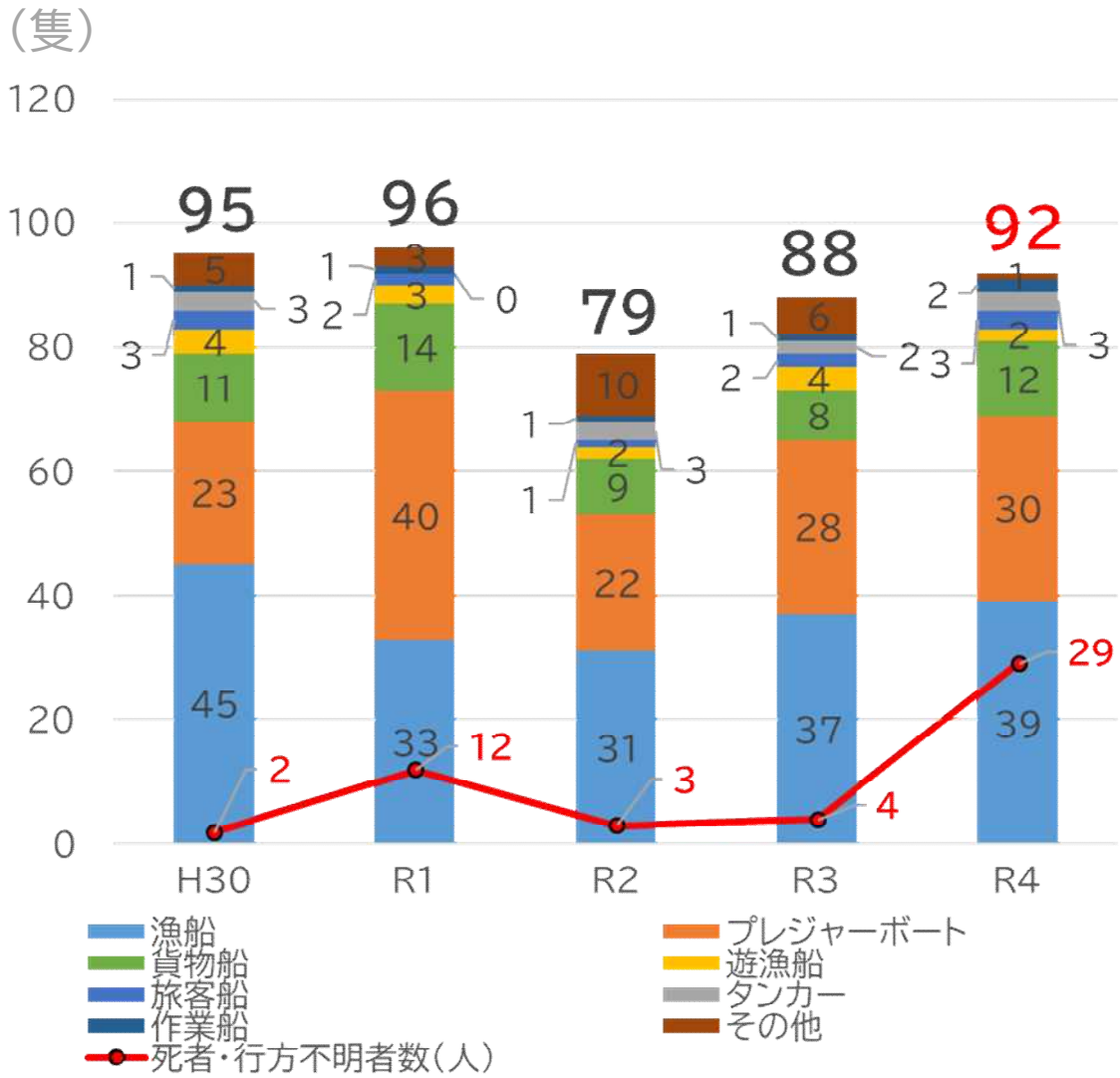
令和4年 海難発生状況

第一管区海上保安本部
交通部安全対策課

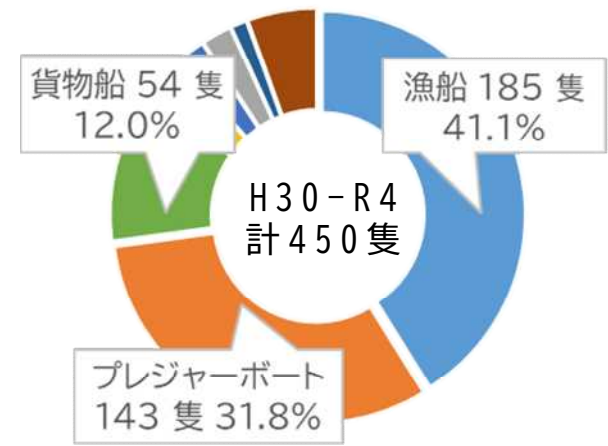
令和5年3月



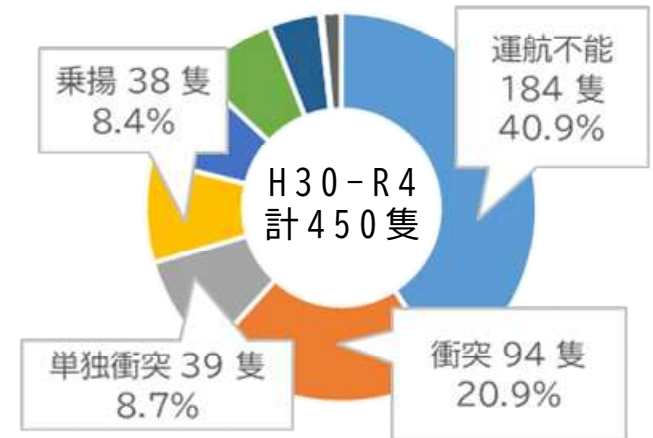
- 平成30年から令和4年の船舶海難発生件数は合計450隻
 - 漁船の海難は、漁業の最盛期となる夏から秋にかけ多発
 - プレジャーボートの海難は、GW以降から初秋にかけ、小樽管内で多発(船長の約半数が内陸部在住者)
 - 貨物船の海難は、衝突が最も多く、外国籍が約半数を占める。
- ※詳細は次頁



船舶用途別発生状況

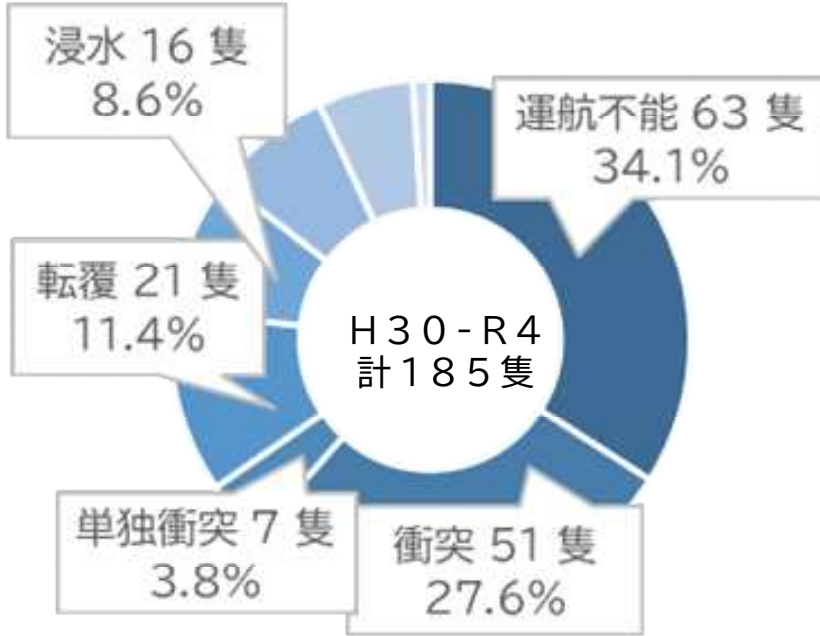


海難種類別発生状況



漁船

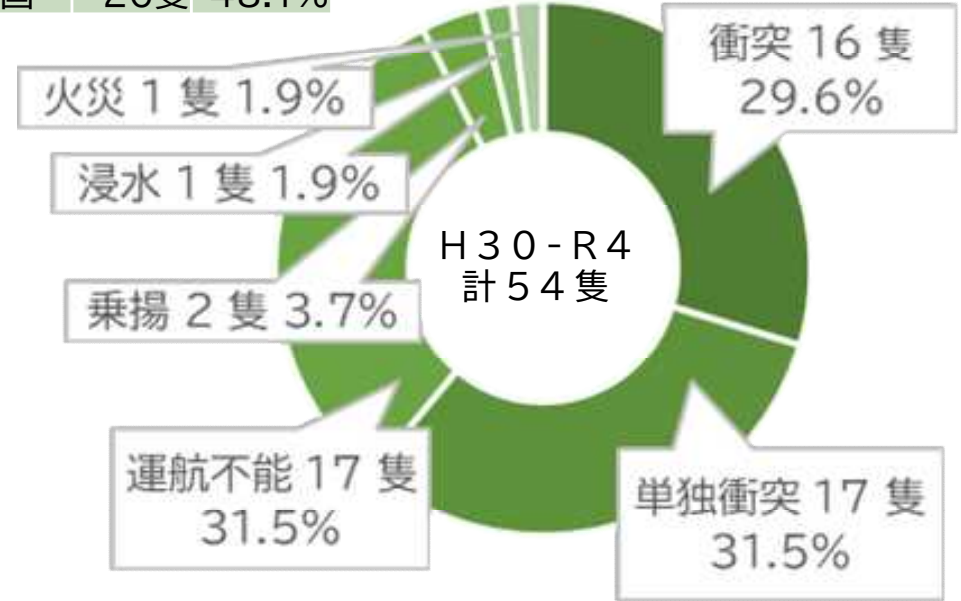
運航不能が最も多いほか、衝突と単独衝突を合計すると両者とも約3割を占める。



貨物船

衝突と単独衝突で約6割を占める。

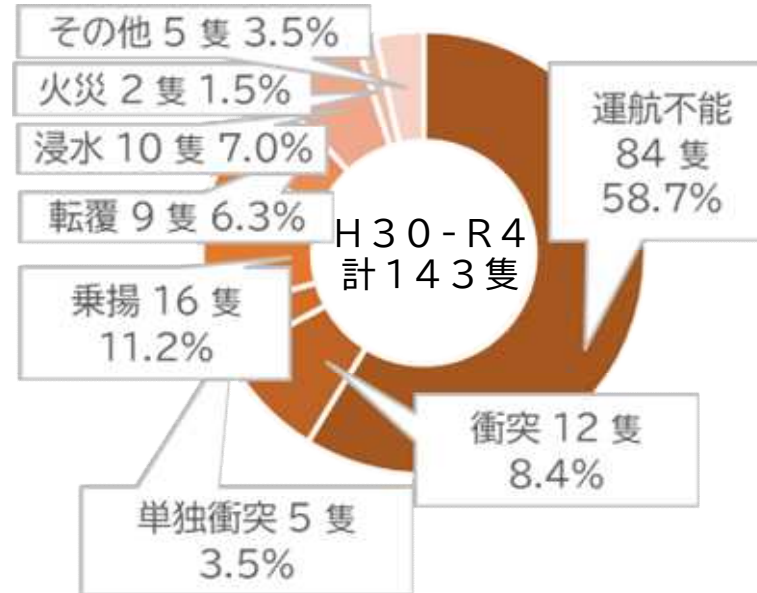
国籍	隻数	割合
日本	28隻	51.9%
外国	26隻	48.1%



プレジャーボート

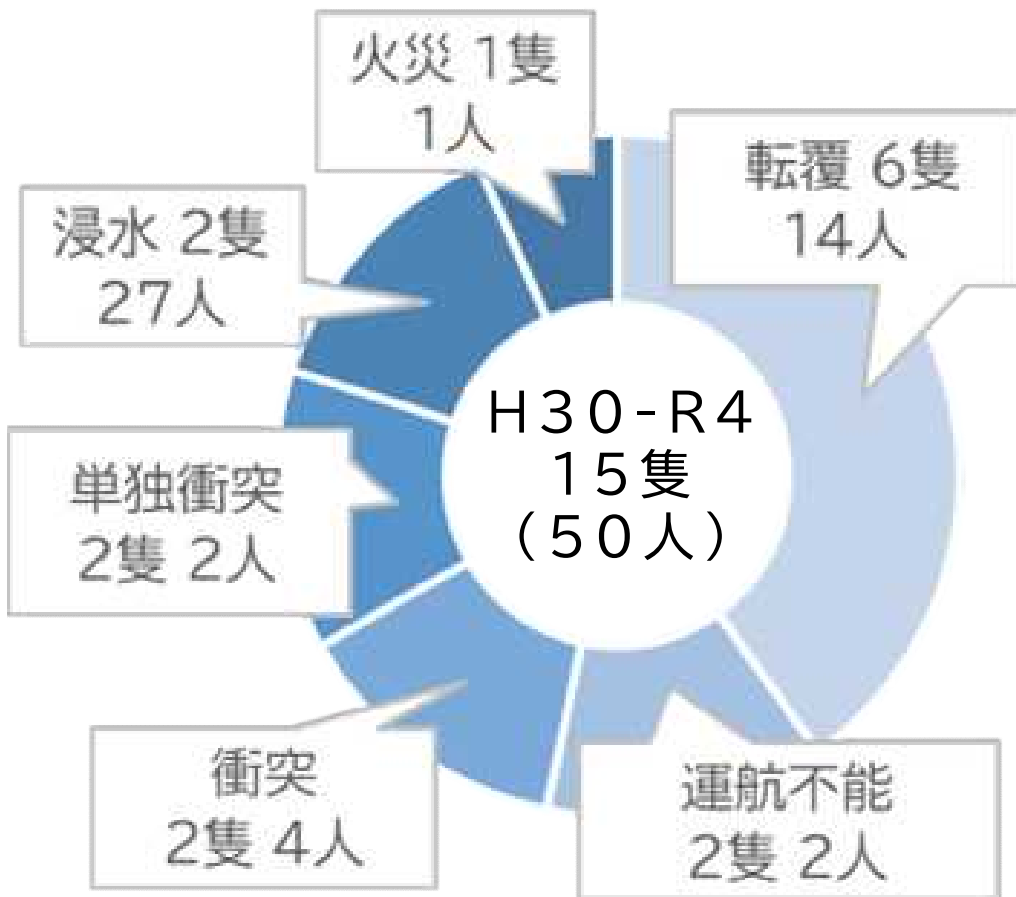
機関故障をはじめとした運航不能が約6割を占める。

住所	隻数	割合
道内内陸	73隻	51.0%
うち札幌市	44隻	30.8%
道内沿岸	63隻	44.1%
道外	3隻	2.1%
外国	2隻	1.4%
その他	2隻	1.4%

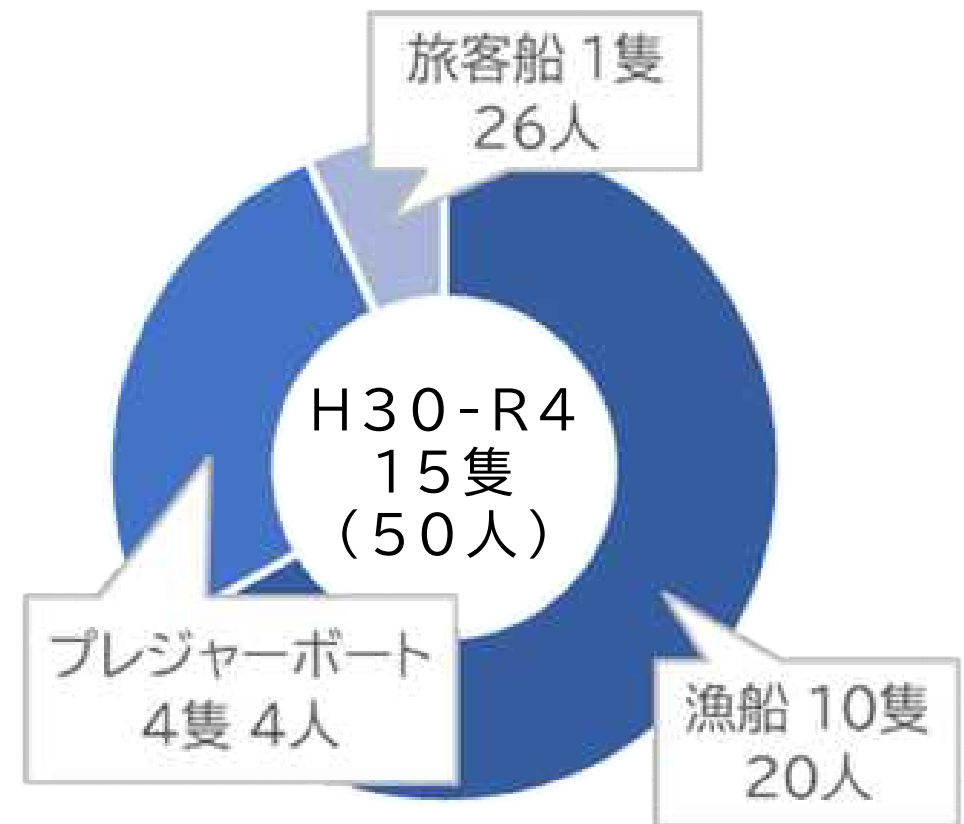


- ▶ 過去5年間の船舶海難のうち、死者・行方不明者を伴う海難は15隻発生しており、50人が死亡または行方不明となっている。

海難種類別

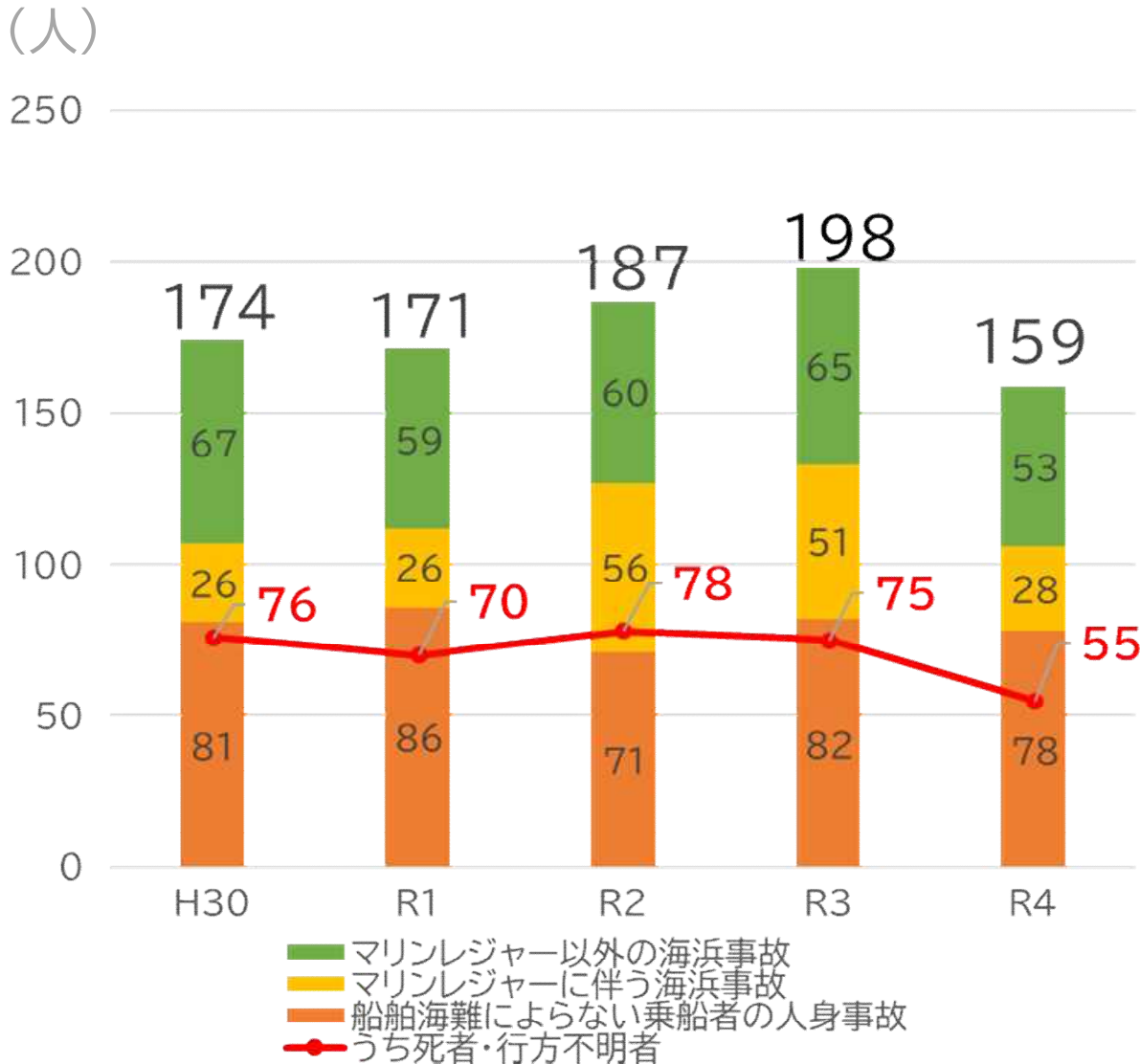


船舶用途別

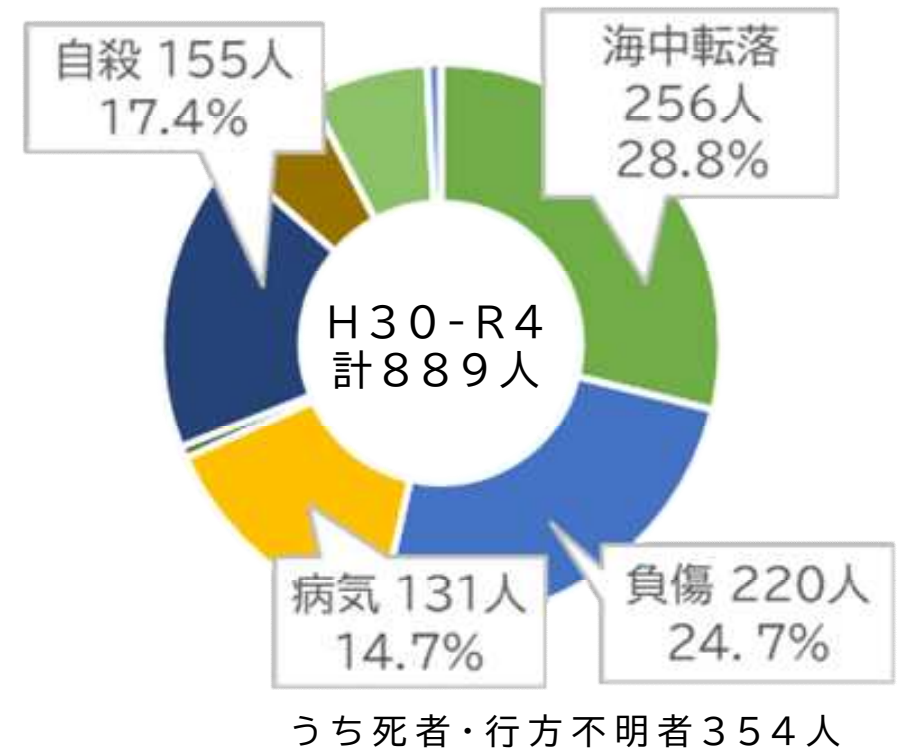


末尾の人数は死者・行方不明者人数

➤ 平成30年から令和4年の人身海難発生件数は合計889人で、行方不明者の数は354人
事故内容としては、海中転落の256人と、負傷の220人を合計すると全体の53.5%

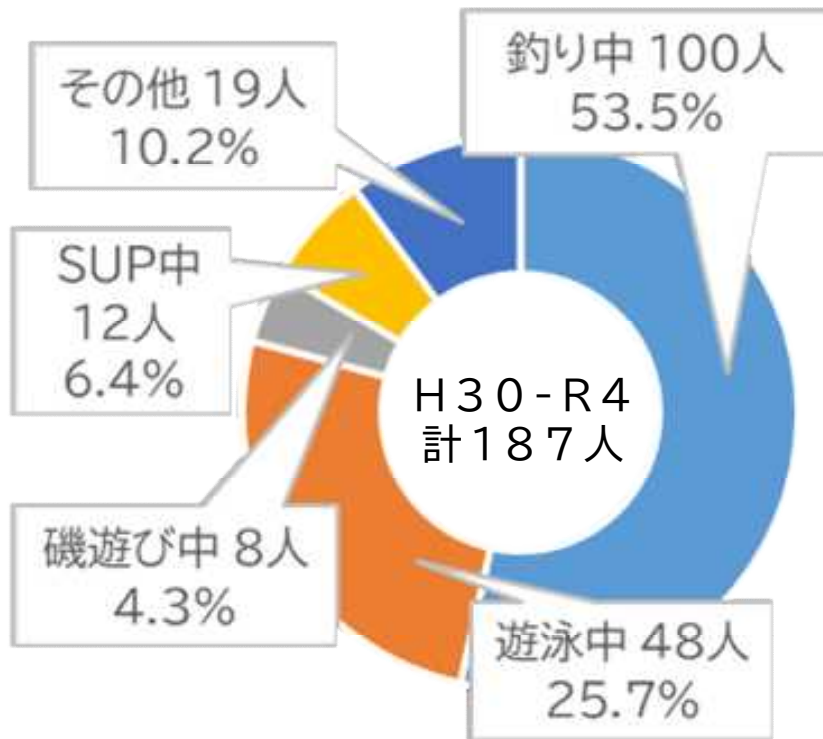


事故内容別発生状況



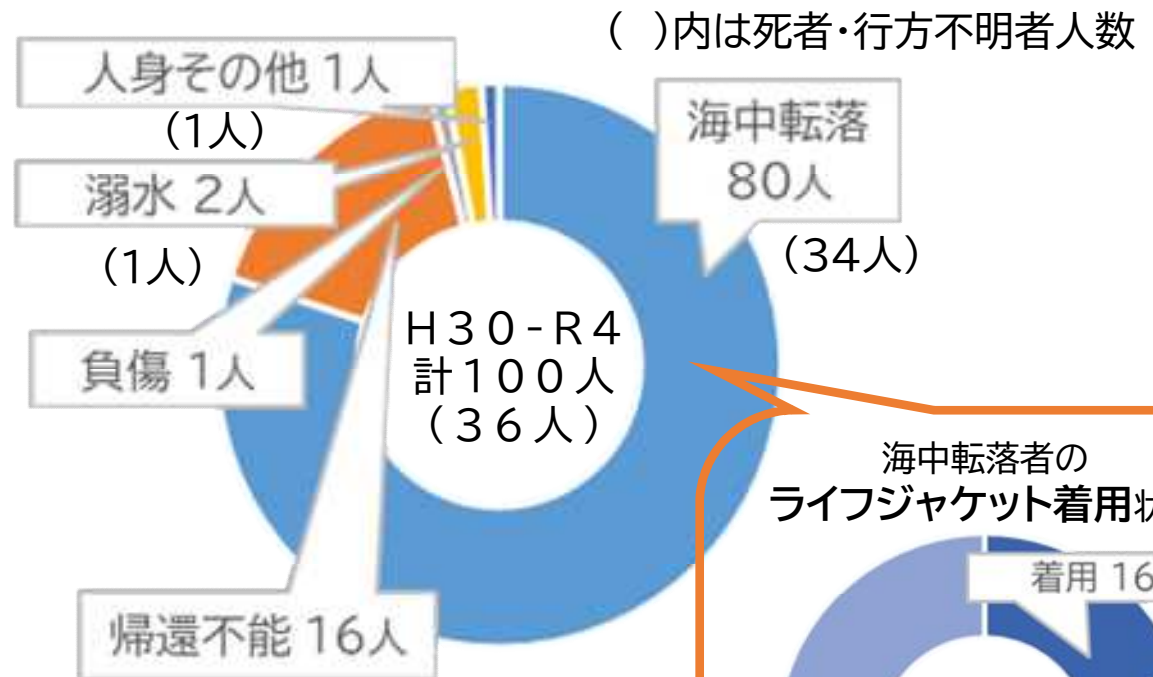
- 活動内容としては、釣り中の事故が最も多く全体の半数以上を占める。
- 釣り中の事故内容は海中転落が80%と大多数を占めるが、海中転落者のライフジャケット着用率は20%にとどまり、非着用の場合は死亡率が約5割

活動内容別発生状況



※SUP・・・スタンドアップパドルボード

釣り中の事故内容



海中転落者のライフジャケット着用状況

